

社会参画の意識を向上させる社会科の学習指導の在り方

—第2学年地理的分野「日本の諸地域 中国・四国地方」における

学び・社会・自分のつながりを考える場面の設定を通して—

奥谷 大樹

【要約】 生徒がよりよい社会の在り方や自分自身の社会との関わり方について考えを深め、社会参画の意識を向上させるために、第2学年地理的分野「日本の諸地域 中国・四国地方」において、学び・社会・自分のつながりを考える場面を設定する実践を行った。単元シートの工夫や問いの工夫、振り返りへの適切な助言を手立てとしながら、中国・四国地方の社会問題とその対策について、多様な他者の意見を踏まえて対話的に考察した。振り返りの記述から、社会に関わる自分自身の在り方や生き方についての考えを深め、社会参画への意識を向上させている生徒の姿を確認することができた。

【キーワード】 社会参画 学び・社会・自分のつながり 単元シート 問いの工夫 対話

1 主題設定の理由

平成29年3月、新学習指導要領が告示された。「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」によると、改訂における社会科の基本的な考え方の一つに、「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」が挙げられている。選挙権年齢が満20歳以上から満18歳以上に引き下げられたことなどを踏まえると、これからの社会を創り出していく子供たちは、社会や世界と向き合ったり関わり合ったりしながら、自らの人生を切り拓き、平和で民主的な国家及び社会の形成者としての自覚を涵養することが求められている。社会科教育では、子供たちがよりよい社会を自ら創り出すために、社会と関わり合いながら社会参画の意識を向上させることが要請されていると言える。

茨城県教育委員会も、学校教育指導方針において、中学校社会科の重点事項における具現化のための取組の一つとして「よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」を挙げている。茨城県の社会科教育においても、社会参画の視点をもった指導の充実を求めていることが分かる。

また、奈須¹は「学習とは具体的な文脈や状況の中で生じるものであり、学ぶとはその知識が現に生きて働いている本物の社会的実践に当事者として参画することである」と述べ、社会と学びをつなげることの必要性を示唆している。高木²は「自分の在り方に目を向け、自分を社会の中にどう位置付け、課題に対してどのように解決していくかということに主体的に関わる中で、自分自身の人生を切り拓いていくことが求められていく」と述べ、社会に対する自分の関わりや社会における自分の在り方を考えながら生きていくことの重要性を訴えている。先行き不透明な現代社会を生きる子供たちに対しては、授業における「学び」、自分の身の回りの「社会」、社会と関わる「自分」の在り方がそれぞれつながりをもった学習指導が求められていると考える。

社会科の学習における意識調査（31頁図1）からは、「社会に対して自分がどのように関わってい

¹ 奈須正裕『『資質・能力』と学びのメカニズム』東洋館出版社、2017年

² 高木展郎『『これからの時代に求められる資質・能力の育成』とは—アクティブな学びを通して—』東洋館出版社、2016年

くかを考えようとする意識」や「社会問題を学習した内容を関連させて考えようとする意識」が十分身に付いていないことが分かった。これまでの実践として、授業において、学習内容と身の回りの社会とのつながりや、よりよい社会の在り方を踏まえて自分自身の働きかけを考えさせる場面が不足していたと言える。反省を踏まえ、指導を改善していく必要がある。

国や県の動向、教育学からの知見、生徒の実態やこれまでの指導の反省から、本研究では、社会参画の意識を向上させる社会科の学習指導の在り方を究明するために、自分と社会のつながりを考える場面を設定することで、社会参画への意識を向上させる学習指導を実現したいと考える。

以上より、学び・社会・自分のつながりを考える場面の設定を通して、社会参画の意識を向上させる社会科の学習指導の在り方を究明したいと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

第2学年地理的分野「日本の諸地域 中国・四国地方」における学び・社会・自分のつながりを考える場面の設定を通して、社会参画の意識を向上させる社会科の学習指導の方法を追究する。

3 研究の仮説

第2学年地理的分野「日本の諸地域 中国・四国地方」において学び・社会・自分のつながりを考える場面を設定すれば、生徒はよりよい社会の在り方や自分自身の社会との関わり方について考えを深めるようになり、社会参画の意識を向上させることができるであろう。

4 研究の内容

(1) 基本的な考え方

① 「社会参画の意識」とは

北³は、「社会参画とは社会に積極的に関わり、よりよい社会をつくるために企画段階から参加し、より主体的に関わること」と説明している。中学校社会科では、学習対象になる地域が生徒の住む地域から離れていることも多い。その場合、離れた地域への社会参画や地域課題の解決の実践は困難である。しかし、例えば実践が困難だとしても、離れた地域の課題を分析し、改善方法を考えることで、よりよい社会について考え、提案することはできる。地域の課題を分析し、よりよい社会を構想する経験の積み重ねが、身近な地域の社会参画に生かされると考える。よって、本研究においては、社会参画への意識を「よりよい社会についての構想をもったり、よりよい社会の形成のために実践したりすること」と定義付ける。

② 「学び・社会・自分のつながり」とは

奈須⁴は「個々の内容について子供の世界との厳密な関連付けを図り、現実世界で展開されている本物の社会的実践という文脈や状況の中で主体的・対話的に深く学ぶことにより、学びは生きて働くものとなる。」と述べている。また、前述したとおり高木は、社会に対する自分の関わりや社会における自分の在り方を考えながら生きていくことの重要性を訴えている。本研究では、学び・社会・自分のつながりを「生徒の主体的な学び、社会における課題、社会における自分の在り方との関連」と捉え、研究を進めていく。

³ 北俊夫「なぜ子どもに社会科を学ばせるのか」文溪堂、2012年

⁴ 奈須正裕『資質・能力』と学びのメカニズム 東洋館出版社、2017年

(2) 主題に迫るために

① 生徒の実態

図1は、社会科の学習における意識調査の結果である。この調査結果を基に、生徒の実態を探っていく。

「学んだことをもとに自分の考えをもとうと意識している。」に関して、肯定的に答えた生徒は 89.1%であり、多くの生徒が学びから自分自身の考えを

構成できていると捉えていることが分かる。一方で、「授業や単元の学びを通して、社会に対して自分がどのように関わっていくか考えている。」に関して否定的に答えた生徒は 19.4%である。このことから、学びを通して自分の在り方や生き方を考える生徒が十分には多くないことが分かる。単元の学びを通して、自分自身の在り方や生き方を考える場面を設定するなど、指導の改善・充実が求められる。

「社会問題を考えるとき、学習した内容を関連させて考えている。」に関して否定的に答えた生徒は 13.9%、「学習している内容を、社会のよりよい姿につなげて考えている。」に関して否定的に答えた生徒は 19.5%と、学んでいる内容と社会との結び付きを十分認識できていない生徒が少なくないことが分かる。課題設定や資料の工夫を通して、学びと社会の結び付きに気付くことができるようにしていく必要があると考える。

「様々な立場の人の意見を受け入れたり、気持ちを考えたりしながら、社会のよりよい姿について考えている。」に関して否定的に答えた生徒は 13.9%、「よりよい社会の実現のために、いま自分ができることを実践したり、これから自分がしたいことを考えたりしている。」に関して否定的に答えた生徒は 13.9%である。自分と社会の関係を考え、社会に参画しようとする意識は十分には育っていないと言える。課題や発問の工夫、振り返りへの適切な助言を通して、社会の中で自分のよさをどのように生かすか、よりよい社会の形成のために自分は何ができるかなどについて考えが深められるようにしていくことが肝要であると考え。

② 指導上の手立て

ア 単元シートの工夫

生徒が社会科の学びを通して、学び・社会・自分の関わりに気付いたり考えを深めたりすることができるように、単元を通して活用する振り返り用紙である単元シートを作成した。次頁図2は実際に授業で使用する単元シートである。

単元シートにより、単元における学び・社会・自分のつながりを可視化したり、各授業の振り返りを1枚のポートフォリオとして自分の変容を見取ったりできるようにする。単元の導入と終末において、単元を貫く課題への予想と考察、社会問題についての自分の考え、社会問題に対する自分の在り方や生き方の考えを記入する。単元の学びを通して自分の考えの変化に気付いたり、自分の学びをメタ認知したりしながら、社会と自分の関係性の変容が分かる構造になっている。

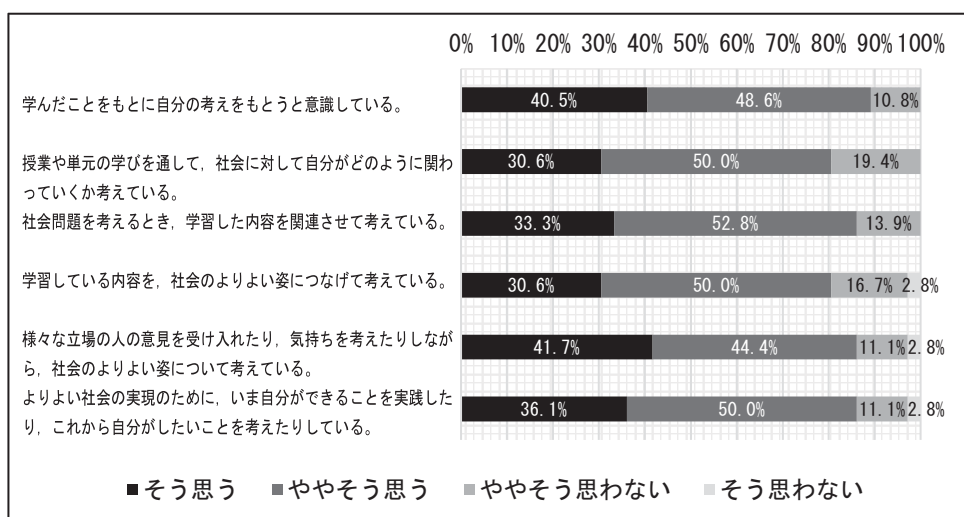


図1 社会科の学習における意識調査

(平成30年8月29日実施 茨城大学教育学部附属中学校第2学年4組37人)

【社会科】〔地理的分野 第2編 第3章 日本の諸地域 2節 中国・四国地方 頁.96～p.145〕 学籍番号 氏名

学習前 [] 社会について

学習後 [] 社会について

単元課題

学習前 単元課題に対する考え

学習後 単元課題に対する考え

① 今日の学習のタイトルを付けてください 月 日 ()

今日の学習で、どんなことを学べましたか？内容・方法など大筋に書き込んでください。

② 今日の学習のタイトルを付けてください 月 日 ()

今日の学習で、どんなことを学べましたか？内容・方法など大筋に書き込んでください。

③ 今日の学習のタイトルを付けてください 月 日 ()

今日の学習で、どんなことを学べましたか？内容・方法など大筋に書き込んでください。

④ 今日の学習のタイトルを付けてください 月 日 ()

今日の学習で、どんなことを学べましたか？内容・方法など大筋に書き込んでください。

⑤ 今日の学習のタイトルを付けてください 月 日 ()

今日の学習で、どんなことを学べましたか？内容・方法など大筋に書き込んでください。

⑥ 今日の学習のタイトルを付けてください 月 日 ()

今日の学習で、どんなことを学べましたか？内容・方法など大筋に書き込んでください。

⑦ 今日の学習のタイトルを付けてください 月 日 ()

今日の学習で、どんなことを学べましたか？内容・方法など大筋に書き込んでください。

⑧ 今日の学習のタイトルを付けてください 月 日 ()

今日の学習で、どんなことを学べましたか？内容・方法など大筋に書き込んでください。

⑨ 今日の学習のタイトルを付けてください 月 日 ()

今日の学習で、どんなことを学べましたか？内容・方法など大筋に書き込んでください。

⑩ 今日の学習のタイトルを付けてください 月 日 ()

今日の学習で、どんなことを学べましたか？内容・方法など大筋に書き込んでください。

学習前 [] 社会に関わる
自分自身の在り方や生き方について

自分自身の在り方や生き方について～授業を通して考えたことのメモ～

学習後 [] 社会に関わる
自分自身の在り方や生き方について

図2 単元シート

イ 問いの工夫

学びと社会のつながりに気付かせるために、単元を貫く課題や各授業の課題を、社会で起きていることや課題となっていることを生かして設定するようにする。また、社会で起きていることや課題となっていることに対して、学校外の他者の意見や考えを参考にできるような問いを投げかける。さらに、社会と自分の関わりを考えさせるために、各授業の課題や授業内での発問を、社会の中で自分のよさをどのように生かすか、よりよい社会の形成のために自分は何ができるかなどの問いとして生徒に投げかけるようにする。これらの問いを通して、生徒が学び・社会・自分のつながりに気付いたり、それぞれの関わりについてより深く考察したりできるようにする。

ウ 振り返りへの適切な助言

生徒は毎回の授業で振り返りを行ったり、単元末に単元全体の振り返りを行ったりする。生徒の振り返りに対して、教師が肯定的に認めたりよさを見付けたりするコメントを朱書きしていく。振り返りに対する助言から、生徒が自分のよさを生かしながら主体的に社会参画の意識を高めていけるようにする。

(3) 授業実践

① 単元名 日本の諸地域 中国・四国地方

② 単元の目標

- 中国・四国地方の自然環境、人口、産業などの特色について概観する中で、特に交通網の整備と都市と農村の変化に関心を持ち、設定した追究テーマを基に地域的特色を意欲的に追究することができる。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 中国・四国地方の地域的特色を、人口や都市・村落を中核とした考察を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現したり、地域が抱える課題の改善策について構想したりすることができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- 収集した資料から、中国・四国地方の地域的特色について、有用な情報を適切に選択して、それを基に読み取ったり、図表などにまとめたりすることができる。
(資料活用 of 技能)
- 中国・四国地方について、人口や都市・村落を中核とした考察を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けることができる。
(社会的事象についての知識・理解)

③ 単元の指導計画 (4 時間)

時 間	学 習 内 容 ・ 活 動	評価計画				
		関	思	技	知	評価規準【評価方法】
第 1 次	1 地図やグラフをから、中国・四国地方の自然環境、人口、産業などの特色を把握する。 資料から中国・四国地方における限界集落の状況を読み取り、単元を貫く課題を設定する。	○				中国・四国地方の自然環境、人口、産業などの特色を大まかに理解している。 【ワークシート】 単元を貫く課題に対して、予想を立て、意欲的に追究している。【単元シート】
	2 中国・四国地方に過密地域と過疎地域が形成される原因について読み取る。			○		中国・四国地方に過密・過疎地域が形成される原因について、複数の資料から読み取っている。【ワークシート】
	3 過密地域における人口集中を人口増減率が示された地図から読み取ったり、過疎地域における高齢化を人口ピラミッドから読み取ったりして、それぞれの地域の社会問題を捉え、対策を提案する。		○			過密・過疎地域が抱える社会問題を複数の資料から多面的・多角的に読み取り、社会問題への対策について自分の考えを表現している。 【ワークシート】
	4 (本時) 多様な他者の意見を踏まえて、社会問題へのよりよい対策を対話的に考察し、発表し合う。 単元を貫く課題に対して考察する。	○	○			多様な意見を踏まえて、社会問題への対策について自分の考えを表現している。 【ワークシート】 単元を貫く課題に対して、学習内容を生かして意欲的に追究している。【単元シート】

④ 本時の指導

ア 目標

中国・四国地方の社会問題とその対策について多様な他者の意見を踏まえて対話的に考察する活動を通して、中国・四国地方におけるよりよい社会の在り方について考えを深めることができる。
(社会的な思考・判断・表現)

イ 展開

学 習 内 容 ・ 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
1 前時に構想した中国・四国地方の過密地域・過疎地域における社会問題への改善策について、学校外の他者からどのような評価・コメントがあったのか共有する。 2 学習課題をつかむ。 様々な意見を踏まえて中国・四国地方の社会問題への対策の提案を修正し、よりよい社会の在り方への考えを深めよう。 3 修正案を考える。 (1) 保護者や地域の人々からの評価・コメントについて、思考ツール〈PMI〉を用いて分析する。 (2) 自分が考えた改善策に対して、グループの友達から評価・コメントを書いてもらう。 (3) 社会問題への改善策を修正する。 4 グループで修正案を共有する。 5 本時のまとめを記入する。 6 本時・単元の振り返りを単元シートに記入する。	○ 学校外の他者からの好意的な反応と予想外の反応をそれぞれ発表させることで、よりよい社会の在り方に対する新たな視点や側面に気付くことができるようにする。 ○ 生徒の問題意識をもとに課題を設定することで、意欲的に学習に取り組めるようにする。 ○ 学校外の他者の評価・コメントを要素ごとに整理することで、生徒たちだけの議論に不足していた視点や側面を確認できるようにする。 ○ 修正の仕方に迷っている生徒に対しては、もう一度地域が抱えている社会問題やよりよい社会とは何かということについて確認させ、社会問題とその対策にずれが生じないようにする。 ○ 修正案の作成に関しては、話型を提示することで、社会問題の現状、要因、改善策の具体について記述できるようにする。 ○ 発表が苦手な生徒に対しては、話型に沿って発表するように促すことで、スムーズに発表できるようにする。 ○ 様々な意見を聴くことで、生徒一人一人がもつよりよい社会の在り方に対する考えを深められるようにする。 ◎ 中国・四国地方におけるよりよい社会の在り方について、多様な他者の意見を踏まえて修正案を考えている。 【ワークシート】 ○ 満足に記述できていない生徒に対しては、本時に見つけた新しい視点や側面のよさを記述してから、よりよい社会の在り方について記述するように促す。 ○ よりよい社会の実現のために、自分はどのような実践ができるかと問うことで、本時で考察したよりよい社会の在り方と自分の在り方をつなげて考えられるようにする。

(4) 分析と考察

① 単元シートの工夫

生徒が学習を通して、学び・社会・自分の関わりに気付いたり考えを深めたりすることができるように、単元を通して使用する振り返り用紙である単元シートを活用した。生徒は第1時の終末で「過密・過疎地域が抱える社会問題はどのように改善していくべきだろうか。」という単元を貫く課題を設定した。この単元を貫く課題を軸とし、「①単元を貫く課題（過密・過疎地域が抱える社会問題はどのように改善していくべきだろうか。）に対する考え、②過密・過疎化する社会についての考え、③過密・過疎化する社会に関わる自分自身の在り方や生き方についての考え」を第1時の終末及び単元末である第4時の終末にそれぞれ記入した。以下、抽出生徒2名の記述をもとに単元シートの工夫についての分析と考察を進めていく。

ア 生徒Aについての検証

学習前

①単元を貫く課題（過密・過疎地域が抱える社会問題はどのように改善していくべきだろうか。）に対する考え

若い世代が住みたくなる・住みやすい町にするための政策や取組をする。（過疎地域について）

②過密化・過疎化する社会についての考え

大都市に人口が集中して過密化すると、郊外は過疎化が進む。この二つは深く関わり合っていると思う。

③過密化・過疎化する社会に関わる自分自身の在り方や生き方についての考え

都市部は住みやすいし移動に便利だけど、過疎地域も魅力はあると思うので、よいところを見つける。

学習後

①単元を貫く課題（過密・過疎地域が抱える社会問題はどのように改善していくべきだろうか。）に対する考え

過疎地への道路を整備し、過疎地へ企業を誘致する。また、屋上緑化をすすめる（福岡市と連携して）ことで、過密化にともなうヒートアイランド現象や人口集中は解消すると思う。

②過密化・過疎化する社会についての考え

過密化・過疎化が進行するのは、中国・四国地方の地形にも原因があると思った。地形を変えることは難しいけれど、第3時で考えたようなことをすれば進行は防げると思う。

③過密化・過疎化する社会に関わる自分自身の在り方や生き方についての考え

歩きで行けるところへは歩いて行く。車などが出す排気ガスが少なくて済むので、地球温暖化予防になると思う。

①単元を貫く課題（過密・過疎地域が抱える社会問題はどのように改善していくべきだろうか。）に対する考えの記述を学習前と学習後で比較すると、学習前は改善策を提案するのみだったのに対して、学習後は過疎地域・過密地域が取り組むべき改善策を具体的に提示することができている。②過密化・過疎化する社会についての考えの記述は、学習前は過密化と過疎化の関連を予想しているが、学習後は「地形」の視点を加えて過密化・過疎化の原因を自分なりに考察し、自分自身が考えた改善策の妥当性に言及しようと試みている。社会参画への意識に最も関わる③過密化・過疎化する社会に関わる自分自身の在り方や生き方についての考えの記述に関しては、学習前は「よいところを見つける」と社会参画への意識が薄かったが、学習後は過密地域の社会問題の改善において自分自身が実践できることを考え、記述することができている。この記述から、社会参画への意識の向上を読み取ることができる。

イ 生徒Bについての検証

学習前

①単元を貫く課題（過密・過疎地域が抱える社会問題はどのように改善していくべきだろうか。）に対する考え

社会問題の実態を調査し、ある程度人口が分散するような政策を施すといいと思う。ニュータウン的なをつくるとか。

②過密化・過疎化する社会についての考え

どちらも様々な社会問題の要因の一つだけれど、その地域だけでの解決は難しいと思うので、政府などの大きな組織が対策をとるべきだと思う。

③過密化・過疎化する社会に関わる自分自身の在り方や生き方についての考え

社会問題の現状を知っておきたいが、働きかけることはできないと思う。

学習後

①単元を貫く課題（過密・過疎地域が抱える社会問題はどのように改善していくべきだろうか。）に対する考え

過疎化の理由は不便であることや施設の不足などが主のようだったので、現在の大都市ほどではなくても少しずつ整備していけばよいと思う。

②過密化・過疎化する社会についての考え

平野部は人が集まり、山間部からは人が出ていくのはある程度仕方がない部分もあるが、やはり問題であることに変わりはないので、過疎地域と過密地域のバランスが大切だと思った。

③過密化・過疎化する社会に関わる自分自身の在り方や生き方についての考え

完全な解決は難しいと思うが、ボランティア的なのがあれば参加してみるのもいいと思う。

①単元を貫く課題（過密・過疎地域が抱える社会問題はどのように改善していくべきだろうか。）に対する考えの記述を学習前と学習後で比較すると、学習前は改善策を提案するのみだったのに対して、学習後は過疎化が進行する背景に言及した上で改善策を提案することができている。②過密化・過疎化する社会についての考えの記述は、学習前は具体性に乏しい記述内容であるのに対して、学習後は過密化・過疎化の実情を自分なりに分析した上で、これからの在るべき社会の姿について記述することができている。社会参画への意識に最も関わる③過密化・過疎化する社会に関わる自分自身の在り方や生き方についての考えの記述に関しては、学習前は「働きかけることはできない」と社会参画への意識が薄かったが、学習後は「ボランティア的なのがあれば参加してみるのもいいと思う」と、社会参画への意識の向上を読み取ることができる。

以上の分析から、生徒Aと生徒Bは、単元を貫く課題の追究を通して、社会への認識を深めたり更新したりし、社会に関わる自分自身の在り方や生き方についての考えを深め、社会参画への意識を向上させることができたと考える。

② 問いの工夫

ア 単元を貫く問いの工夫

中国・四国地方の学びと生徒自身が過ごす社会のつながりを見いだせるように、本単元を貫く課題を「過密・過疎地域が抱える社会問題はどのように改善していくべきだろうか」と設定した。過密・過疎という視点から中国・四国地方の学びを進めていくと同時に、過密・過疎地域が抱える社会問題の改善策について考えさせる活動を通して、諸地域の学習と生徒が住んでいる地域が抱える問題のつながりが生まれるようにした。

生徒が単元シートの②過密化・過疎化する社会についての考え及び③過密化・過疎化する社会に関わる自分自身の在り方や生き方についての考えに記述した内容には、「中国などのように、

格差が大きくなってしまいが、機能を拡散するのは難しいので、その地域に合った産業、魅力ある街づくりを進めることが大切である。」「自分たちの住む環境をよりよくする（清掃などの奉仕）。例え都会に出ても、最終的には地方に戻ってくるものが将来的に必要なだと感じた。」など、生徒自身が住んでいる地域が抱える問題につながる意見が書かれていた。生徒にとって身近な社会のよりよい在り方を考えることを通して、生徒の社会参画への意識が向上したと考える。

イ 社会と自分の関わりを考えさせる問いの工夫

第4時の終末において、「過密地域・過疎地域の社会問題を解決していくために、自分自身のよさや考えをどのように生かすことができるか考えてみよう」と生徒に投げかけた。生徒が単元シートの③過密化・過疎化する社会に関わる自分自身の在り方や生き方についての考えに記述した内容には、「自分たちの周りでも過疎化・過密化の問題は進んでいるので、これから地域を改善していくのは若い人々で、私たちにもその責任は来る。そのときに、住む人も他の地域に住んでいる人もよいと思えるような所にするため、今、この問題を考えていきたい。」など、社会と自分の在り方や生き方を結びつけた意見が書かれていた。

社会と自分の関わりを考えさせる問いの工夫によって、生徒は自分自身の社会との関わり方について考えを深め、社会参画の意識を向上させることができたと考える。

ウ 振り返りへの適切な助言

それぞれの振り返りにおける生徒の振り返りに対して、教師が肯定的に認めたりよさを見付けたりする助言を朱書きしていった。「他人の視点を加えて、よりよいアイデアを練り上げることはとても大切なことです。」「資料を新しいアイデアのために役立てるという力は大切です。」などといった助言を書いた。生徒の学習意欲は一層高まり、生徒が自分のよさを生かしながら主体的に社会参画の意識を高めていくことに寄与できたと考える。

5 研究のまとめ

第2学年地理的分野「日本の諸地域 中国・四国地方」における学び・社会・自分のつながりを考える場面の設定を通して、社会参画の意識を向上させる社会科の学習指導の方法を追究した結果、次のことが明らかになった。

- (1) 単元シートの工夫により、単元を貫く課題の追究を通して、社会への認識を深めたり更新したりし、社会に関わる自分自身の在り方や生き方についての考えを深め、社会参画への意識を向上させることができた。
- (2) 問いの工夫により、生徒にとって身近な社会のよりよい在り方を考えたり、自分自身の社会との関わり方について考えたりすることを通して、社会参画の意識を向上させることができた。

6 今後の課題

全生徒が単元シートに記述できたが、過密化・過疎化する社会に関わる自分自身の在り方や生き方について一部の生徒は十分に考えを深めることができていなかった。社会に関わる自分自身の在り方や生き方について、単元を通して考え続けさせることが肝要であろう。生徒が毎回の授業の中で学び・社会・自分のつながりを見いだすことができるように、発問や課題を工夫したり、資料を精選したりしていく必要があると考える。

〈文献〉

文部科学省「中学校学習指導要領解説 社会編」東洋館出版社，2018 年

茨城県教育委員会「学校教育指導方針」2018 年

北俊夫「なぜ子どもに社会科を学ばせるのか」文溪堂，2012 年

高木展郎「『これからの時代に求められる資質・能力の育成』とは

—アクティブな学びを通して—」東洋館出版社，2016 年

奈須正裕「『資質・能力』と学びのメカニズム」東洋館出版社，2017 年